

平成19年度実施事業 事業評価シート

事業名:	トド被害対策事業	3-7
・運営の方法(1:直営、2:民間委託、3:補助、4:その他)	複数回答可	3
・事務の分類(1:自治事務、2:法定受託事務)		1

担当部課	浜益支所産業振興課	直通電話	79-2177
担当部長	工藤 泰雄	担当課長	渡邊 隆之
		担当者	寺山 和孝

1 事業のアウトライン			
(1)事業概要及び交付金額等の積算根拠	トド被害対策事業を実施する石狩湾漁業協同組合に対し、事業費の2分の1以内の補助金を交付する。		
(2)事業開始年度	平成10年度	(3)事業終了年度	未定
(4)総合計画での事業体系	テーマ等	3 元気で活力あるまち	
	施策項目(大)	(2)水産業の振興	
	施策項目(小)	つくり育てる水産業の確立と後継者などの育成	
	施策コード	30201	

2 事業の内容	
(1)事業の目的 何のために	トドによる水産資源の食害及び漁具被害を軽減し、漁家経営の安定を図る。
(2)目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	初冬から翌春にかけて来遊するトドを威嚇及び休息場所の解消による拡散を行い、漁場内の水産資源の食害と漁網被害を軽減し、漁家経営の安定を目指す。
(3)事業の方法 どんな手段を講じるのか	当該海域に来遊するトドの休息場所となっている岩礁に爆音機及び上陸防止柵を設置するほか、ハンターによる威嚇等を行いトドの拡散を行う。
(4)19年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	送毛地区の岩礁に上陸防止柵を設置した。
(5)事業の背景・社会状況・他の類似事業など	浜益区におけるトドの漁業被害は平成5年頃からみられ、年々増加の一途をたどっており、浜益のみならず北海道沿岸の漁業に大きな被害を与えている。平成10年度から被害対策として各種取組みを行っているが、絶滅危惧種のため駆除数が制限されている。
(6)事業の立案や実施における協働の視点	

3 事業に投入した行政資源				
区分	H17	H18	H19	H20予算
(1)直接事業費(千円)	220	400	400	380
(2)その他の間接経費(千円)				
(3)従事正職員の人件費(千円)	604	580	628	
総事業費((1)~(3)の合計:千円)	824	980	1,028	
事務に従事した正職員延べ人数	0.07	0.07	0.07	

4 交付団体の予算・決算 (単位:千円・%)										
区分	H17	H18	H19	H20予算	区分	H17	H18	H19	H20予算	
	市補助金等(A)	220	400	400		380	備船料	450	628	450
道補助金		1,000	1,000	1,000	ハンター謝礼	100	100	100		
自己資金	330	600	600	620	弾代負担金		260	210		
					上陸防止柵設置等		962	962	1,730	
					消耗品費		50	178		
					強化網実証試験費				270	
計(B)	550	2,000	2,000	2,000	雑費			100		
(A/B)	40.0	20.0	20.0	19.0	計	550	2,000	2,000	2,000	

5 事業活動の結果 (単位:千円・%)					
活動指標名		H17	H18	H19	H20
トド来遊頭数(頭)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定
	実績値	3,417	1,467	5,136	
	達成率	-	-	-	
トド駆除数(頭)	目標値	3	3	3	3
	実績値	3	3	3	
	達成率	100.0	100.0	100.0	
	目標値				
	実績値				
	達成率				

6 事業の成果		(単位:千円・%)			
成果指標名		H17	H18	H19	H20
トド被害金額(千円)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定
	実績値	56,028	80,322	143,033	
	達成率	-	-	-	
	目標値				
	実績値				
	達成率				
	目標値				
	実績値				
	達成率				

7 事業の観点別評価		担当課長が評価します。	
(1) 必要性		(4) 有効性	
ア 市民ニーズ	1 大きい 2 普通 3 小さい	1 密接な関連がある 2 関連がある 3 関連はほとんどない	1 2 3
イ 市の関与	1 行政にしかできない 2 民間等でもできる 3 民間等でやるべき	イ 成果	1 すべて達成している 2 一部達成している 3 達成していない
(2) 効率性		ウ 事業内容	1 極めて妥当 2 一定の妥当性あり 3 妥当性が低い
ア コスト削減	1 不可能である 2 難しい 3 可能である	(1)~(4)の評価ポイント合計	
(3) 公平性		総合評価の参考にしてください。	
ア 受益者負担	1 不可能である 2 難しい 3 可能である	7~11	A or B
		12~15	B or C
		16~21	D or E
13			

8 課長評価		担当課長が評価します。	
(1) 平成19年度事業の総合評価		爆音機やハンターによる威嚇のほか、新たに送毛地区のトド上陸岩礁に防止柵を設置し、トドの拡散による移動傾向や漁業被害の推移を把握し、一定の成果をあげることが出来た。しかし、当該海域に来遊するトドの頭数そのものは減少しておらず、水産資源や漁網被害を少しでも軽減するため、引き続き本事業の実施が必要である。	
B	評点の意味 (A:極めて良好、B:良好、C:可も不可もない、D:問題がある、E:大きな問題がある)		
(2) 今後の方向性・課題		絶滅危惧種のため駆除数に制限があり、平成20年度は従来より頑丈な上陸防止柵を設置してトドの拡散を行い、水産資源や漁網等の被害の拡大を少しでも軽減し、漁業者が安心して操業できるよう、北海道をはじめ、関係機関・団体と連携し、引き続き本事業を継続していく。	
(3) 平成21年度の方向性			
*:担当課長		事業内容	
		現状維持	一部見直し 大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		

↓ ここまで担当課長が記載した上で、パブリックコメントを実施し、市民意見を募集します。

9 課長評価に対する市民意見	

10 部長(市長)評価		課長評価に対する市民意見を踏まえて、部長職(もしくは市長)が評価します。	
(1) 平成19年度事業の総合評価		新たに送毛地区のトド上陸岩礁に防止柵を設置し、トドの拡散による移動傾向や漁業被害の推移を把握するなど、一定の成果をあげることができたが、来遊するトドの頭数そのものは減少していない。	
C	評点の意味 (A:極めて良好、B:良好、C:可も不可もない、D:問題がある、E:大きな問題がある)		
(2) 今後の方向性・課題		3年かけて強度を高めて設置する防止柵の有効性を検証するため、引き続き事業を継続する必要がある。	
(3) 平成21年度の方向性			
:担当部長(もしくは市長)		事業内容	
		現状維持	一部見直し 大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持		
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		
平成20年度から3年計画で設置する防止柵の2ヵ年目			